

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472200217
法人名	医療法人 三愛
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地 (電話番号)	三重郡菟野町大字宿野字神明田325 (電話) 059-393-5022
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 6 月 16 日(月)

## 【情報提供票より】 (H20年5月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11人, 非常勤 7人, 常勤換算	15.2人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	29,500 円~
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

### (4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 90 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人三愛 三愛病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関の飾り柱を利用して、事業所で収穫された玉ねぎがたくさん吊され微笑ましい風情を感じる。玄関扉を入れてすぐに職員の名前、顔写真(有資格を明記)がボードで案内され、オープンな印象を受けた。開設から5年経過して、職員の異動がほとんどないことにも驚かされる。利用者が80歳から90歳を越えた方が大半でありながら、顔つやもよく笑顔で穏やかな生活を送られているのが伝わってくる。施設長は職員に全幅の信頼を寄せており、職員間の仲もよく、職員自らスキルアップを目指して資格を取得し、質の高いケアが実践されている。2ユニットはそれぞれが独自性を持っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度は運営推進会議が開催されておらず、課題となっていたが、本年2月から3ヶ月に1回、開催をされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理的な項目については施設長が記入し、ケアの項目については各ユニットごと、会議で職員が討議し主任がまとめ報告された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は毎回、テーマを決めている。家族、利用者の参加が多く、当事者が中心である配慮が伺える。2回目の防災をテーマにした会議では、地元区長さんからも協力体制が話され、また事業所が耐震構造の建物であり、食料の備蓄などから、事業所が避難所として地域と協力できることなど行政の職員を交えて話し合いがもたれた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が、どんなことでも話しができる雰囲気作りを心がけている。心配なこと不安なことを運営推進会議でのテーマに取り上げ、家族の参加のもと、話し合い意見交換の場としている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	外出するのが頻繁で、近くのショッピングセンターや外食屋さん、喫茶店とはすっかり顔なじみになっている。近隣から苗木をいただいたり、野菜づくりの手伝いをしてもらったり、地域から手を差しのべてもらっている。

## 2. 評価報告書

( ■ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に「地域に開かれたものにする」とともに、利用者が地域の一員として生活を支える」と明記され、利用者が作ったモットー「笑顔一番、心ニコニコ、今日も楽しく一日を過ごそう」の精神でケアに取り組んでいる。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの実践は、職員の方向性を同一にするのが大事で、申し送り時や会議などで施設長や主任などから話しをされ、みんなで取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい				
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の共同作業にも積極的に参加している。近隣の店の方とは顔なじみになっている。畑の野菜作りには近隣の方から苗をもらったり、副え木を持ってきてくれたり、手を貸してくださる等、普段からの付き合いができています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で検討することで、職員の気づきなど明らかになっている。	
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではテーマを決めて話し合いがされている。終末期医療のテーマで利用者、家族の思いが話し合われ、防災のテーマでは訓練、地域の協力、事業所を避難場所として提供することなど、それぞれの分野の方が出席して討議されている。	

		○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いつでも行政の担当者に相談するようしており、庁舎へはよく出向いている。行政との関係作りを上手く構築している。町の福祉モニターを、月1回受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
		○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ひだまりたよりを毎月家族へ送付している。個々の様子は面会時や電話で話している。(一方通行にならぬよう、話すことを重視している。)金銭は一部預かっている方があり、個別に収支を明記し、領収書を添付して報告している。また、玄関に掲示されている職員の名前と顔写真、有資格等の一覧表は家族へも送付し好評である。		
		○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも言える関係作りを心がけて、言い易い雰囲気づくりに努めている。運営推進会議には全家族に声をかけて出席を求めて、意見、要望を出してもらおう場としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく定着している。ユニット間での異動もない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、自ら資格取得を目指し勉強会に参加し、スキルアップしている。外部研修は、勤務都合など考慮しながら参加をしている。施設長が介護福祉士の身体講習指導員で、資格を活かし伝授指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県のグループホーム連絡協議会へ加入し、研修などを通じて交流している。	○	北勢地区のグループホームのリーダーとなり得る力量があり、北勢周辺のまとめ役を期待する。

## Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に見学をしてもらい、納得して利用してもらっている。事業所での生活はいままでの自宅の生活の延長であるので、違和感なく馴染んでもらうよう居心地のよい雰囲気作りを心がけている。</p>		
----	----	---	---	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜作りや花の育成、手入れなど利用者と職員が一緒に取り組み、収穫の喜びを分かち合っている。</p>		
----	----	--	--	--	--

## Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>受容と共感をモットーに、その人の思いにそったケアを実践するため、思い(本心)が言える雰囲気、環境であるよう、傾聴に努めている。</p>		
----	----	---	--	--	--

### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月、カンファレンスをかねた会議でケース検討会が実施され、担当者が家族の意向を踏まえた介護計画を作成しケアマネの資格を有する各ユニットの主任が確認している。担当者が介護計画を作成することで、より責任をもったきめ細かい介護が実践できている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは、毎月の会議で話し合われている。定期的な見直しは3ヶ月ごとに、また変化があれば随時見直されている。状態が刻々変化する利用者がみえ、何回も見直している計画書を拝見した。</p>		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りに行きたい、自宅周辺の様子を見たいなど利用者の希望に叶う支援をしている。通院介助、馴染みの美容院へ行くことなども支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関の院長にはいつでも相談できる。また、脳の病気で入院し、退院後事業所へ戻られた利用者には、毎日点滴のための通院介助、リハビリ介助をして、適切な医療受診をする支援がされている。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の協力のもと、利用者、家族の意志を確認しあい、方針を共有している。運営推進会議で「ひだまりにおける終末期医療と介護」をテーマに議論された。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉で尊厳を損なうことのないよう、徹底的な職員教育がされている。書類等の保管、記録の記入等は事務所内でされている。	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の様子、天候などをみてその日のスケジュールが決まるので毎日することが変化する。朝、モーニングに行きたいと利用者から希望があれば、近くの喫茶店へ出かけるなど希望に添う支援が実践されている。	

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに個性がある。献立は食べたい物を中心に利用者で考え、時には利用者も買い出しに行く。自家製の野菜を使ったり、お値打ち品を買って食材としたりバラエティー豊かである。下ごしらえや調理にも利用者の出番がある。和気あいあいとして穏やかな食事風景である。食後の片付けも利用者とともに和やかにされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。希望があれば朝風呂、夕風呂の入浴にも対応できるが、今は午後の時間帯が入浴にあてられている。かけ湯が大好きな利用者は、しまい風呂に入り、ゆっくりのんびりたっぷりのお湯をつかって入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りやお料理等々それぞれの力を発揮し、役割があって張り合いのある生活を送られている。外出支援を積極的にして、外食に出かけたり、季節折々の花見に行くなど楽しみでもあり気分転換にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に戸外へ出ている。遠くまで出かけることもあるが、事業所の敷地が広く玄関から出て、外の空気に触れたり、散歩するなど支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないが、各ユニットの出入りに鍵がかけてられている。交通量の多い道路に面していることなどから施錠することの同意を家族から得ている。利用者の様子から、出たいのを察知し、職員が同行して行く。事業所内の窓は掃きだし窓で、そこには鍵をかけていない。圧迫感を感じない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は消防署の指導のもと、実施しているが、今後月に1回、職員が訓練のテーマを決めて災害訓練をしていきたい意向である。運営推進会議で防災をテーマに行政の防災担当者、地区区長などと話し合いの場がもたれ、地域の協力はもとより、事業所が地域の避難場所として提供できることなどが話された。	○	今後、避難誘導や初期消火、夜間での訓練など自分たちの知恵を出し合い、現場に即した訓練を実践されるよう期待する。

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
状況	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立を記録し、バランスを考慮したものをとりれるようにしており、母体の栄養士の指導も受けている。水分補給は怠らないよう摂取に心がけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったり作られた事業所で、食堂から回り廊下の離れた場所に掘りごたつがある和室の居間兼客間がある。季節の掛け軸やお花が生けてあり居心地の良さを感じる。窓からは涼やかな風が入り、光もほどよい。対面式に設備された台所は使いよい。中庭に洗濯物を干すようになっているが、利用者が椅子に座ったままでも干したり寄せたりできる工夫がされている。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らし慣れた椅子や整理ダンスなど持ち込まれた自分らしい居室になっている。持ち込みがない方には、職員が自宅へ出向いて、利用者の使い慣れた品を取りに行き、その人が自宅での生活の延長と思える居室になるよう手伝えることもある。	